

(ノーサイド)

NO SIDEを、 社会へ。

～共創社会に向けた価値の再定義～

ラグビーには、
企業と社会の未来への示唆がある。

100年の歩みのなかで、
ラグビーは何を育んできたのか。
激しく競いながら、試合が終われば敵味方を越える。
異なる体格、能力、役割を持つ人間が、
それぞれの違いを生かしながら、一つのチームになる。
その価値は、スポーツの世界だけにとどまるものなのでしょうか。

- なぜ企業は、ラグビーを支え続けてきたのか。
- いま、私たちはラグビーから何を学ぶべきか。
- 次の100年、ラグビーは社会に何を提言できるのか。

開催日時:2026年10月5日(月)
会場:ロイヤルパークホテル

本日のプログラム

16:00 ● FORUM

「NO SIDE」の思想を、
経営・組織・社会の視点から問い直す。

● OPENING | 開会

開会挨拶 | 土田雅人

● TOP PARTNER GREETING | トップパートナー代表挨拶

ラグビー精神が育む強いチームと社会の力
～日本ラグビー100年への感謝と未来への期待～
上原明氏

16:30 ● KEYNOTE SPEECH | 基調講演

矛盾許容的価値多元論
澤田純氏

17:00 ● PANEL DISCUSSION | パネルディスカッション

共創社会に向けた企業とスポーツとの関係値とは？
中島達氏 / 吉田淳一氏 / 村井満氏
モデレーター | 鈴木寛氏・笹井裕子

● MESSAGE FROM

JAPAN NATIONAL TEAM | 日本代表メッセージ
エディー・ジョーンズ

18:10 ● NETWORKING

フォーラムで生まれた問いを、対話へ。

フォーラムで生まれた問いや気づきを共有し、参加者それぞれの経験や視点を交わす時間。
対話から、新たなつながりと共創を育みます。

● BEYOND THE FORUM

今日の対話を、次の100年へ。

企業は、なぜラグビーを支えてきたのか。ラグビーから、いまの経営や社会は何を学べるのか。
その価値を、どう社会へひらいていくのか。今日生まれた問いや言葉を、それぞれの現場へ持ち帰る。
そこから新たな対話や実践が始まり、人や組織がつながっていく。

100年の感謝を、次の100年の共創へ。今日を、その起点に。

あなたの

NO SIDE _____ とは？

ラグビーが育んできたもの。

MESSAGE

01 | トップパートナー
代表挨拶

上原明氏

大正製薬株式会社
相談役



「ラグビー精神が育む
強いチームと
社会の力

～日本ラグビー100年への
感謝と未来への期待～」

日本ラグビー協会100周年を機に、日本代表チームのスポンサーとなった経緯や、故・宿澤広朗氏との交流を振り返りながら、日本ラグビー発展の歩みについてお話しします。また、自身の競技経験を通じて学んだラグビーの価値である「信頼」「役割」「敬意」の精神、そして“NO SIDE”に象徴されるチームワークの本質について考察します。さらに、一人ひとりが役割を果たし、仲間を信頼して協力することの大切さを、スポーツのみならず社会や組織の発展にも通じる視点からお伝えし、日本ラグビーのさらなる飛躍への期待を語ります。

02 | 経営哲学・
組織原理

澤田純氏

NTT株式会社
取締役会長



「自由と規律は、
一見相反するようで、
実は両立する。」

NTTグループとして、長年にわたりラグビーを支援し、さまざまな形で関わってきましたが、私自身も一人のファンとしてラグビーの魅力に触れてきました。特に惹かれるのは、リスペクトを土台に、一人ひとりが自ら判断しながら、チームとして規律を保つところです。自由と規律は一見相反するようで、実は両立する。共通の規律の中で個が自律し、状況に応じて役割を越えて動く。そうしたラグビーの精神性には、企業経営にも通じる大切な示唆があると感じています。

03 | 価値観・
リーダーシップ

中島達氏

株式会社三井住友
フィナンシャルグループ
執行役社長 グループCEO



「勝つことにこだわる。
しかし、
正しく勝つ。」

ラグビーは、小学生の頃、高校ラグビー部の監督だった叔父に手ほどきを受け、その後、高校から大学まで本格的に取り組みました。学生時代は勝ちたい試合に勝てずに悔しい思いをしましたが、そのなかで、「勝ちにこだわる姿勢」を身につけました。また、勝つためには、情熱をもって困難に挑戦すること(Passion)、仲間と力を合わせて結束すること(Solidarity)、そして、フェアに、誠実にプレーして正しく勝つこと(Integrity)が大切であると学びました。このラグビーのコアバリューでもあるIntegrity、Passion、Solidarityは、私が仕事をするうえで常に意識する価値観となりました。今では、私の経営姿勢の原点として、SMBCグループの仲間、全世界13万人の従業員と共有しています。

04 | 街・
コミュニティ

吉田淳一氏

三菱地所株式会社
取締役会長



「スポーツには、
街に熱量と一体感を
生む力がある。」

当社は、2019年ラグビーワールドカップ日本大会への協賛を機に、ラグビーと深く関わるようになりました。当初は、まちづくりをしてきた我々が、どのようにラグビーとともに成長できるかという悩みがありましたが、その魅力を多くの人に知ってもらい、街から応援を届けようと、「にわかファン」とともに応援をはじめました。丸の内エリアでは、ラグビー神社の建立など、街全体で大会を応援した結果、大会後の感謝パレードには約5万人ものファンが集結。スポーツには人をつなぎ、街に熱量と一体感を生む力があると実感しました。この経験は、人が自然に集い、感動を共有できる「リアルな価値」を大切に、現在のまちづくりにもつながっています。

05 | 文化・人間形成

村井満氏

公益財団法人
日本バドミントン協会会長、
公益社団法人
日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)
名誉会員(第5代チェアマン)



「ラグビー部には、
“両立するのが格好いい”
という文化があった。」

私の母校、埼玉県立浦和高校にとってラグビーは校技とも言える存在です。入学手続き書類に「ヘッドギアの作り方」があるくらいです。1年からラグビーの授業があり、基礎的な倒れ方やタックルの仕方まで全員が学びます。1年生から3年生まで全校上げてのクラス対抗ラグビー大会まであります。私はサッカー部でしたが、ラグビー部とはコートを2分して練習しますから今でも交流が続いています。ラグビー部は花園まで出場するレベルでもあります。高校時代から感じていたのはラグビーとサッカーの文化の違いです。ラグビー部は勉強もクラブも両立するのが格好いいとする気風があり、サッカー部は全員が浪人でした。そんなラグビーの魅力を共有したいと思っています。

06 | 教育・政策・レガシー

鈴木寛氏

東京大学教授、
慶應義塾大学特任教授



「2019W杯は大成功に
終わり、レガシーとして、
ラグビー・スクール・ジャパンも
創立されて本当によかった。」

高校時代、私はサッカー部でしたが、ラグビー部員が足りないときは、キックと走力を活かして、ウィングやセンターで助っ人をしていました。ラグビーとの本格的な付き合いは、私が慶應SFC准教授のときに、同志社大学ラグビー部監督での岡仁詩先生の指導を組織経営論の観点から学ばせていただき、また、平尾誠二さんと一緒にSCIX(Sports Community & Intelligence Complex)をわが故郷でもある神戸で、一緒に創立したことに始まります。参議院議員(ラグビーワールドカップ招致・成功国会議員連盟副会長兼幹事長)、文部科学副大臣、文部科学大臣補佐官として、2019ラグビーワールドカップの招致・準備にも携わりました。一番大変だったのは、国立競技場の建て替えがW杯に間に合わず、日本政府を代表してお詫びと決勝をおこなう横浜国際総合競技場の説明にロンドンに飛び、200万枚のチケット完売を約束させられたことです。2019W杯は大成功に終わり、レガシーとして、ラグビー・スクール・ジャパンも創立されて本当によかったです。

FROM THE FORUM DIRECTORS



内山浩文

公益財団法人
日本ラグビーフットボール協会

日本ラグビー協会の
100年から、
何を受け継ぐか。

ラグビーに長く携わってきたからこそ、その魅力は競技の内外にあると感じています。100年の過去を振り返り、ラグビーの翻訳や可能性そしてその価値が社会になにをもたらすのかを考える機会にしたいと思います。

ラグビーの価値は、社会へどうつながるのか

自律と規律 | 正しく勝つ | 人と街をつなぐ | 人を育てる | 未来へレガシーを残す

これらを、「ラグビーの中だけの価値」で終わらせない。

SPORTS > BUSINESS > COMMUNITY > EDUCATION > SOCIETY > NO SIDEを、社会へ。



笹井裕子

びあ総合研究所
株式会社

社会に必要な価値を、
「続く価値」に変えていく。

びあ総研は、エンタテインメントやスポーツが生み出す価値を、経済効果だけでなく、人や社会にもたらす豊かさまで捉えてきました。価値は「大切だ」と語るだけでは続きません。趣旨性と経済性をどう両立し、社会に必要なものを持続可能な価値へ変えていくのか。ラグビーと企業が長く築いてきた関係のなかに、そのヒントを探りたいと思います。